

2018 国立音楽大学大学院オペラ公演

歌劇

コジ・ファン・ トゥッテ

K.588 全2幕

〈イタリア語原語上演／
日本語字幕付〉

W. A. Mozart

Così fan tutte



作曲：W.A.モーツァルト

台本：L.ダ・ポンテ

指揮：阪哲朗

演出：中村敬一

管弦楽：国立音楽大学オーケストラ

合唱：国立音楽大学合唱団

Cast

フィオルディージ

ドラベッラ

フェルランド

グリエルモ

ドン・アルフォンソ

デスピーナ

20日

長田 真澄

谷本 雅

高柳 圭

島田 恭輔

大川 博

千葉 菜々美

21日

丸山 智子

和田 美樹子

秋山 和哉

山本 萌

大島 嘉仁

照沼 小雪 (1幕)

大塚 啓 (2幕)

スタッフ

■ 声楽指導：岩森美里／加納悦子／黒田 博

澤畑恵美／福井 敬

■ 原語指導：森田 学 ■ 合唱指揮：安部克彦

■ 音楽スタッフ：佐藤 宏／相田久美子／大園麻衣子

篠原明子／田村ルリ／藤川志保／三澤志保

■ 装置：鈴木俊朗 ■ 衣裳：半田悦子

■ 照明：山口 暁 ■ 舞台監督：徳山弘毅

■ 演出助手・字幕製作：古川真紀

2018 10/20(土)・21(日)

午後2時開演
(午後1時15分開場)

国立音楽大学講堂大ホール

西武拝島線／多摩都市モノレール「玉川上水駅」下車徒歩7分
公演当日は学生駐車場(大学正門横)を無料でご利用いただけます。

7月20日(金)発売開始 SS席：¥4,000 (NEW) プレ・トークにご参加いただけます。詳細はチラシ裏面または大学HPをご確認ください。 / S席：¥3,000 / A席：¥2,000 (全席指定)

★やむを得ない事情により出演者等が変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

★就学前のお子様のご同伴、ご入場はご遠慮ください。

★開演しますと、お席にお座り頂けない場合もございます。あらかじめご了承ください。

★入場料収入の一部は大学の奨学金制度充実のための資金として、活用させていただきます。

贈から未来をつくる。

チケット取扱

チケットぴあ <http://pia.jp/> 0570-02-9999

ファミリーマート、セブン-イレブン、チケットぴあ店舗 (Pコード:121-898)

国立音楽大学書籍売店(宮地楽器) 042-537-8200

宮地楽器ららぽーと立川立飛店 042-540-6636

宮地楽器小金井店ショールーム 042-385-5585



【特別協賛】 Kanro 【主催】国立音楽大学 <http://www.kunitachi.ac.jp/> 【お問合せ】国立音楽大学演奏センター 042-535-9535

大学院オペラ「コジ・ファン・トゥッテ」によせて

沼口 隆 (国立音楽大学准教授)

今秋もまた恒例の大学院オペラを上演いたします。大学院音楽研究科声楽専攻オペラコースの2年生たちは、大学院に入学した時から2年生で出演することになる演目が定められ、それを目指して準備を重ねてきています。大学院オペラへの出演は、学部時代も含めて、音大生として修練してきたものの集大成と言っても過言ではないでしょう。彼らを中心としながら、修了生たちの助演があり、歌曲コースを含む声楽専攻の大学院生たちの出演があり、オーケストラや合唱の一部には学部生も加わっています。「大学院オペラ」とは申しても、国立音楽大学の総力を挙げての公演と見ることもできるでしょう。

今回はイタリア語による上演ですが、外国語を細かいニュアンスまで含めて理解し、正しい発音と発声によって歌唱へと昇華させるだけでも大変なことです。ひとくちに「歌唱」とは言っても、話し言葉に近い抑揚の部分があれば、旋律性が豊かな箇所もあり、幅広い技術が要求されます。しかし、それでもまだ充分ではありません。オペラにおいては、日常生活では身に纏うことのないような衣裳を自然に着こなしたり、カッタをかぶったりすることも要求されることが多く、さらに演技をすることが不可欠です。作品の内容やその時代背景もよく理解した上で、歌唱と演技を説得力のある表現へと融合させることには、経験者にしか分からない大変さが伴っているはず。指揮者、演出家、共演者をはじめとして、たくさんの人々がともに支え合ってこそ成立する芸術ですから、コミュニケーションの能力も問われます。学生たちは、ときには思い悩み、試行錯誤を重ねながらも、屈することなく本番の舞台へと向かってゆきます。長期に亘る努力の積み重ねを経た上で、本番における緊張感と集中力には、学生ならではの特有の素晴らしさがあり、それを是非にも劇場で味わっていただきたいと願っております。

今年の演目はモーツァルトの《コジ・ファン・トゥッテCosi fan tutte》です。表題を訳せば「女はみんなこうするもの」となりますが、意味するところは「女の人は誰でも心変わりをするものだ」ということです。原語では、最後の一文を代えて"tutti"とする

だけで「みんなこうするもの」という意味になり、女性への限定は語尾の変化のみによるのですが、こうした微妙なニュアンスは英語や日本語では活かすことができません。敢えて「女は」と付け加えざるを得ないのは、何とも垢抜けない感じがします。一方で、このオペラには「恋人たちの学校La scuola degli amanti」という副題も付いています。この「恋人たちamanti」は、「tutti」と同じ語尾変化で、女性への限定がありません。若いカップルが2組登場するのですが、いずれもが程度の差なく現実というものを感じ知られることになるので、彼ら全員にとっての「学校」というわけです。

ちなみに「コジ・ファン・トゥッテ」という言葉は、モーツァルト《フィガロの結婚》にも登場するのですが、本作の中でも男性3人によって大きな声で唱えられます。そこで用いられるとても印象的な音型は、序曲の中でもトランペットやティンパニが加わった目立つ形で予示されています。初めて御覧になる方でも耳に残ることと思いますので、序曲とオペラ終盤との連関をお楽しみいただければと思います。

舞台はモーツァルトと同時代(18世紀後半)のナポリです。フィオルディリージ(ソプラノ)とドラベッラ(メゾ・ソプラノ)の姉妹には、それぞれにグリエルモ(バリトン)とフェルランド(テノール)という婚約者がいます。男たち二人は、恋人の途な愛を信じて疑わず、女の貞節など幻想だと主張する老哲学者ドン・アルフォンソ(バス)に大いに反発し、彼女たちの気持ちを試すことにします。ところが、彼ら二人がまったくの別人に変装し、相手を取り替えて言い寄ると、女性たちの気持ちはなびいてしまいます。ドン・アルフォンソは、この大芝居を仕組み、姉妹の小間使いであるデスピーナ(ソプラノ)も籠絡して協力させます。最後には、種明かしがあり、改めて若い男女が(元の相手と)愛を誓い合います。

我が恋人の心変わりを嘆き、であればこそ余計にムキになって親友の恋人を必死で口説くさまは、滑稽というほかはありません。しかし、人間誰しも、それを笑ってばかりもいられないような面を抱えているはず。数多くの重唱によって織りなされる心理の彩を存分に御堪能下さい。

阪 哲朗 Ban Tetsuro, conductor



阪哲朗は欧米での客演が数多く、これまで主にドイツ、オーストリア、スイス、フランス、イタリアなどでオーケストラ、歌劇場に招かれ成功を収めている。日本ではNHK交響楽団をはじめ各地の主要オーケストラ、新国立劇場、二期会などのオペラ団体を指揮している。とりわけ、2008/09年年末年始に、ウィーン・フォルクスオーパーで同劇場の年間のハイライトとも言うべき公演である「こうもり」を指揮し、大変な話題となった。これまでに、ウィーン・フォルクスオーパーをはじめ、シュトゥットガルト歌劇場、スイス・バーゼル歌劇場、新国立劇場などで多くの作品を指揮。ドイツ国内はもとよりヨーロッパ各地でのコンサート及びオペラで活躍の場がさらに広がっている。

京都市出身。京都市立芸術大学作曲専修にて廣瀬量平氏らに師事。卒業後、ウィーン国立音楽大学指揮科にてK.エステルライヒャー、L.ハーガー、湯浅勇治の各氏に師事。これまでに、ビール市立歌劇場(スイス・ベルン州)専属指揮者(1992～97年)、ブランデンブルグ歌劇場専属第一指揮者(1997～98年)、ベルリン・コーミッシェ・オーパー専属指揮者(1998～02年)、アイゼナハ歌劇場(ドイツ・テューリンゲン州)音楽総監督(2005～09年)、山形交響楽団首席客演指揮者(2007～09年)、レーゲンスブルグ歌劇場(ドイツ・バイエルン州)音楽総監督(2009～17年)を歴任。

1995年「第44回ブザンソン国際指揮者コンクール」優勝。ABC国際音楽賞、ホテルオークラ音楽賞、渡邊暁雄音楽基金音楽賞、藤堂頭一郎音楽賞受賞など受賞多数。

中村 敬一 Nakamura Keiichi, stage director



オペラ演出家。

1957年東京に生まれる。はじめ、武蔵野音楽大学同大学院で声楽を専攻、卒業後、舞台監督集団「ザ・スタッフ」に所属してオペラスタッフとして活躍。以後、鈴木敬介、栗山昌良、三谷礼二、西澤敬一各氏のアシスタントとして演出の研鑽を積む。89年より、文化庁派遣在外研修員として、ウィーン国立歌劇場にて、オペラ演出を研修。帰国後、リメイク版「フィガロの結婚」、二期会公演「ドン・ジョヴァンニ」「ボッペアの戴冠」で、高い評価を得、続く二期会公演「三部作」、東京室内歌劇場公演「ヒロシマのオルフェ」、日生劇場公演「空地蔵・北風と太陽」で、演出力が絶賛され、95年ジローオペラ新人賞を受賞する。また、2000年には新国立劇場デビューとなった「沈黙」が、高く評価された。01年ザ・カレッジ・オペラハウス公演「ヒロシマのオルフェ」で大阪舞台芸術奨励賞を受賞。また、オペラの台本も手がけ、02年国民文化祭鳥取で宮沢賢治原作、新倉健作曲「ボラーノの広場」の台本と演出を担当し高評価を得ている。音楽的な視点と豊かな感性による舞台づくりは広く認められ、また若い声楽家の指導、オペラの普及に尽力している。

国立音楽大学客員教授、大阪音楽大学客員教授、洗足学園音楽大学客員教授、大阪教育大学講師、沖縄県立芸術大学講師。

プレトークのご案内 (SS券をお持ちの方のみ)

「コジ・ファン・トゥッテ」の見どころ、聴きどころを、歌手として活躍している本学の教員と本公演の演出家よりお話しいたします。チケット(SS券)をお持ちの上、直接会場へお越しください。
※チケット1枚につき、1回ご入場可。

日時&スピーカー (予定)	10/20(土)12:45開始(12:15開場)／13:15終了 澤畑恵美、岩森美里、中村敬一 10/21(日)12:45開始(12:15開場)／13:15終了 福井敬、黒田博、加納悦子、中村敬一
会 場	国立音楽大学 新1号館127オペラスタジオ

20日(土)



フィオルディリージ
長田 真澄



ドラベッラ
谷本 雅



フェルランド
高柳 圭



グリエルモ
島田 恭輔



ドン・アルフォンソ
大川 博



デスピーナ
千葉 菜々美

21日(日)



フィオルディリージ
丸山 智子



ドラベッラ
和田 美樹子



フェルランド
秋山 和哉



グリエルモ
山本 萌



ドン・アルフォンソ
大島 嘉仁



デスピーナ(1幕)
照沼 小雪



デスピーナ(2幕)
大塚 啓

〔座席表〕

